

発掘だより

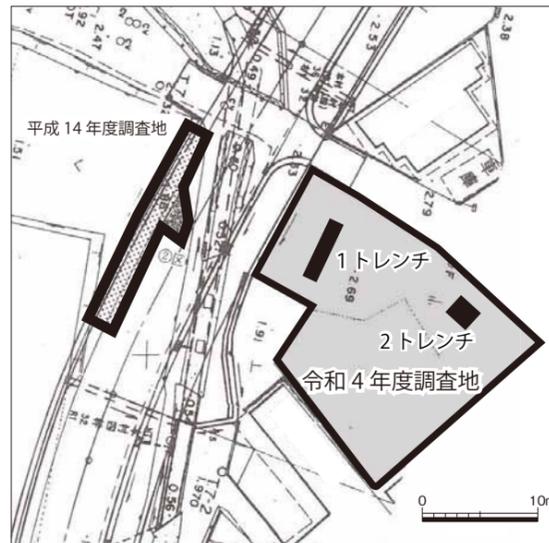
つむうらいせき
積浦遺跡 (香川郡直島町)

「地域総合調査研究事業」の一環として、積浦遺跡の発掘調査を令和4年6月13日～24日に行いました。この遺跡は弓なりに内湾した海岸の汀線付近に形成された砂堤(砂堆)の先端部分に立地しています。これまでに昭和58年度と平成14年度に調査が行われ、特に平成14年度の調査では平安時代末から室町時代にかけての港湾施設と考えられる石積遺構や礫敷遺構などが確認され、古墳時代初め頃から近世にかけての遺物が出土しています。

今回の調査では、海側へ緩やかに下る砂地の緩斜面に、扁平な礫が平坦面を上に貼り付けられた礫敷遺構を確認しました。礫の密度がやや低いものの、平成14年度に確認されたものと類似しています。これは砂堆の汀線付近に構築された荷揚げ場の足場補強などを目的とした一種の舗装であると考えられます。礫を覆う砂からは12世紀ごろの土器片が少量出土したことから、平成14年度に見つかった礫敷遺構と同じころのものと考えられます。平成14年度調査地との間には水路があり、かつては砂堆を分断する流路であったと考えられますが、今回の調査により、この流路の両岸に港湾施設が構築されていたことが明らかになりました。



位置図 (S=1/20,000)



国土地理院 (KK667X-C5A-7) 1966年撮影
2次 平成14年度調査地 1次 昭和58年度調査地 3次 令和4年度調査地



1トレンチ 礫敷遺構



▲ 弥生時代後期の竪穴建物跡
岡遠田遺跡



▲ 積浦遺跡 (直島町) 調査風景

いにしへの
讃岐

香川県埋蔵文化財センター情報誌

NO.110

香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4
tel. 0877-48-2191 fax. 0877-48-3249
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/maibun/index.html>



香川県埋蔵文化財センター **調査速報展** —令和3年度の調査—
 令和4年6月10日～10月7日 香川県埋蔵文化財センター 第1展示室

香川県埋蔵文化財センターが令和3年度に調査した城泉遺跡・城泉東遺跡（東かがわ市）、青海中村遺跡（坂出市）、沖南遺跡・岡遠田遺跡（丸亀市）、讃岐国府跡（坂出市）、地域総合調査研究事業（香川郡直島町）の調査成果についてご紹介します。

城泉遺跡 東かがわ市白鳥

城泉遺跡は平成23年度から断続的に調査が行われています。これまでの調査では古墳時代の集落跡などが検出されており、令和3年度の調査でも古墳時代後期の土坑跡や掘立柱建物跡などが見つかりました。この土坑跡からは滑石製の子持勾玉1点・白玉17点が出土しました。城泉遺跡の中央部では古墳時代の金環、滑石製の玉類、城泉遺跡の西にある田中遺跡からは古墳時代の琴柱形石製品が出土しています。これらはいずれも当時の貴重な装飾品です。この周辺には同時期の古墳は確認されておらず、副葬品が混入したとは考え難いことから、祭祀具に使用されたものと考えられます。城泉遺跡周辺での祭祀具の出土は、古墳時代の集落での祭祀を考えるうえで貴重な事例になりました。



▲ 展示風景



▲ 白玉と子持勾玉

城泉東遺跡 東かがわ市白鳥

城泉東遺跡は城泉遺跡の東方にあり、鎌倉時代から江戸時代の柱穴跡・土坑跡・溝状遺構・井戸跡、土器片・陶磁器片などが見つかりました。

江戸時代の井戸跡は土で埋め戻されており、埋土に竹が突き刺さっていました。竹の長さは約180cmで、節はくり抜かれています。この竹は「息抜きの竹」と呼ばれており、井戸の神様が地中と地上を行き交うときの通路や呼吸のための空気孔、井戸内を乾燥させて地盤沈下を予防するためのものと言われています。城泉東遺跡の人々は水を届けて生命の恵みを与えてくれた井戸を粗末に扱わず、「息抜き」という行為を行って井戸を埋めたことがわかりました。



▲ 「息抜きの竹」が見つかった井戸跡



▲ 鎌倉時代から室町時代の柱穴跡

青海中村遺跡 坂出市青海町

青海中村遺跡は、五色台から延びる丘陵に挟まれた谷に位置します。この遺跡では鎌倉時代から室町時代の柱穴跡と土坑跡、江戸時代から明治時代ごろの石積み遺構、土器・陶磁器・瓦などが見つかりました。柱穴跡は掘立柱建物を構成するもので、この付近には鎌倉時代から室町時代の集落があったことがうかがわれます。

調査区の中央部で見つかった江戸時代から明治時代の石積み遺構は塊石を積み重ねたものです。調査区外に及ぶため全体はわかりませんが、平面形は円形と推定され、調査区内での最大径は5mです。深さは3mほどあり、底面には小礫を敷いています。この遺構では現在でも湧水があることから、谷の伏流水を貯水する出水施設であると考えられます。

鎌倉時代から室町時代になると、青海中村遺跡では集落が作られましたが、江戸時代になるとこの周辺は耕地化され、田畑を潤すための貯水施設が作られたことがわかりました。



▲ 江戸時代から明治時代の石積み遺構

沖南遺跡 丸亀市飯山町上法軍寺

沖南遺跡は丸亀平野の東部に位置し、周辺には古代から中世の土地区画の名残である条里地割が広がっています。

この遺跡は令和元年度から発掘調査が行われました。令和3年度の調査では、弥生時代の河川跡、平安時代後半ごろ～室町時代(11～16世紀)の溝跡群などが見つかりました。

弥生時代の河川跡は蛇行しながら南から北に向かいます。調査区の南にある岡田台地に挟まれた谷に集まった水が流れていたと考えられます。調査区南端で見つかった平安時代後半ごろ～室町時代の溝跡群は西から東

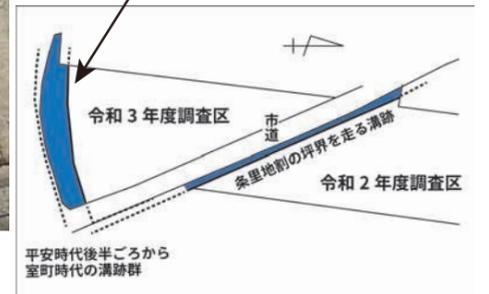
に向かい、北東の調査区(令和2年度調査)で見つかった南から北に流れる溝跡に合流すると考えられます。これらは周辺の条里地割に平行する灌漑用水路です。沖南遺跡の調査によって、この周辺では平安時代後半には田畑の開発が広がったことがわかりました。



▲ 弥生時代の河川跡 南から



▲ 鎌倉時代から室町時代の溝跡群 東から



岡遠田遺跡 丸亀市飯山町上法軍寺

岡遠田遺跡は丸亀市の南部、岡田台地に立地する遺跡です。令和3年度は遺跡の北部から中央部にかけて発掘調査を実施し、弥生時代後期と鎌倉時代の集落跡が見つかりました。弥生時代後期の集落跡では約20棟の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、多量の土器を廃棄した土坑などが見つかりました。特に、遺跡の中央部北寄りで見つかった土坑跡からは、弥生時代後期前半の土器片が多量に出土しました。

岡遠田遺跡の西150mには弥生時代～室町時代の集落跡である遠田遺跡がありますが、この周辺では弥生時代から鎌倉時代の集落跡が広範囲に広がっていることがわかってきました。



▲ 弥生時代後期の土坑 廃棄された多量の土器片が出土しました